

愛知県社会保険労務士会が大学に寄附講座

知っておくべきワークルールの寄附講座を実施

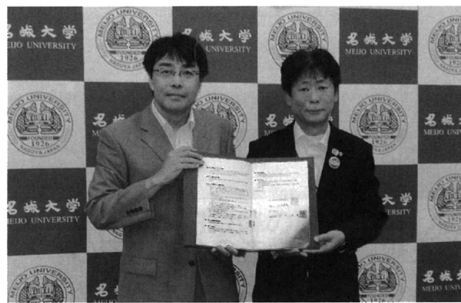
■愛知県社労士会と名城大学経営学部が覚書を締結

愛知県社会保険労務士会（大滝春義会長）と名城大学経営学部（田中武憲学部長）は7月27日、名城大学天白キャンパス（名古屋市天白区塩釜）において、平成31年前期寄附講座の実施に関する覚書を締結した。

この講座は、学生が社会保険労務士の仕事・活動の分野を知ることにより、「働き方改革」や「女性活躍推進」といった話題を学び、働き方や労使関係について実践的に理解し、社会人となるために必要な知識・技能を習得することを目的としている。

講義は15回の予定で、授業内容は、「社会保険労務士とは何か」、「ワークルールの全体構造」、「メンタルヘルスの重要

性」、「学生と年金制度」など幅広く、「賃金計算の手法と実務」や「労働時間と賃金」など、労働基準法制に関する具体的なものも含まれている。また、多様な正社員と非正規雇用をめぐる問題や「働き方改革」といったホットな話題も取り上げる予定になっている。



覚書を交わした大滝愛知県社労士会会長（右）と田中名城大学経営学部長

平成30年10月1日号 労働基準広報



講義開設の覚書に調印した大滝会長（左）と佐藤学部長（右）は、北区の愛知学院大名城公園キャンパスで

仕事と職場のルール 社労士を講師に講座 来月から愛院大
 学生に仕事と職場でのルールを学んでもらおうと、愛知学院大は九月から社会保険労務士を講師に招いた講座を開設する。名古屋市の北区の愛知学院大名城公園キャンパスに提携する県社会保険労務士会を招き、調印式をした。
 政府の「働き方改革」がまず重要度が増すテーマ。これから社会で活躍する学生に多く学んでもほしいとあいさつ。同大の佐藤悦成学長は「社会に出て働く」と、さまざまなトラブルが降りかかってくる可能性がある。学生には今のうちからどんな制度があるか、どこに相談をすればいいかを知ってほしい」と話した。

名城大と講座の覚書を調印 愛知県社労士会
 愛知県社会保険労務士会（大滝春義会長）と名城大学経営学部（田中武憲学部長）は寄附講座の実施に関する覚書を同大学の天白キャンパスで調印した（写真）。同講座は社労士の仕事と活躍を知ることを通して、働き方



や労使関係の実践的な理解を促すのが目的。今年度は前期と後期に3回ずつ講演会を開催し、来年度から全15回の特殊講義を行う予定。講義では賃金の計算方法などの身近なテーマから、健康経営や働き方改革といった最近のトピックまで取り上げる。期末には成績を評価し、単位認定も行う。大滝会長は「アカデミックな視点だけでなく、実務的な視点から知識を身に付けてもらいたい」と期待を寄せた。

平成30年8月29日 中日新聞

平成30年8月27日号 労働新聞